International Theatre Conference Forum Final in Kani

世界劇場会議国際フォーラム Final in 可児

参加申込要項

●参加費

フォーラム参加費 **3,000**円

※理由の如何を問わず、お支払い済みの参加費は返金できませんのでご了承ください。

●申込方法

https://sgfm.jp/f/ITCF2023inKani

申込締切 **2023 年 1 月 16 日（月）**

※当日もお席に空きがあれば参加をお受けいたします。

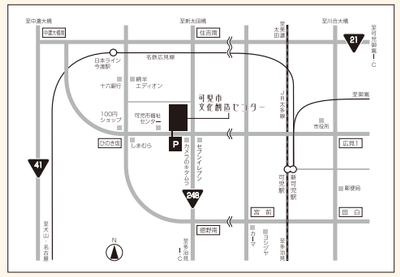
WEB 予約⇒当日現金支払い または 事前振込 (1/16 まで)

※可児市文化創造センター窓口提出または FAX 送信でも構いません。

●会場案内

可児市文化創造センター

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139
9:00-22:30（火曜定休／年末年始休館12/28～1/4）
Tel. 0574-60-3311 Fax. 0574-60-3312
E-Mail info@kpac.or.jp　URL. https://www.kpac.or.jp/



■ 名鉄名古屋駅より約50分・日本ライン今渡駅下車、徒歩10分
■ JR名古屋駅より約70分・可児駅下車、タクシーで約10分、徒歩30分
■ 東海環状自動車道可児・御嵩ICから約15分
■ 中央自動車道 多治見ICから国道248号線経由で約25分

お振込先　公益財団法人可児市文化芸術振興財団
理事長　髙木 伸二
東濃信用金庫　可児支店
普通　718968

お問合せ
可児市文化創造センター ala
〒509-0203 岐阜県可児市下恵土 3433-139
TEL. 0574-60-3311　FAX. 0574-60-3312
Email. alamachigenki@gmail.com　https://www.kpac.or.jp/

近隣のホテル 〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉

ご予約は各施設へ直接お願いいたします。

ホテルルートイン可児	ＡＢホテル可児	ホテルシンセリティ
岐阜県可児市広見5-130-2	岐阜県可児市広見6-54	岐阜県可児市広見2-55
tel.0574-63-1323	tel.0574-60-0413	tel.0574-63-3111

世界劇場会議国際フォーラム Final in 可児 参加申込用紙

ふりがな		性　別	年　齢	所属団体
お名前	※団体申込の場合は代表者をご記入の上、参加者名簿をお送りください。	男・女	才	
ご連絡先	〒（　　―　　） 都道府県　　区市郡			
	電　話　（　　）　　―	FAX　（　　）　　―		
E-mail				

参加費		
	フォーラム参加費 3,000 円 ×　　人	領収書の発行　□ 必要
	合計　　円	領収書の宛名：

FAX. 0574-60-3312

文化庁文化芸術振興費補助金
（劇場音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会

KANI PUBLIC ARTS CENTER ala

International Theatre Conference Forum Final in Kani

世界劇場会議国際フォーラム Final in 可児

2023年1月26日[木]～27日[金]

会場：可児市文化創造センター ala　小劇場

テーマ

劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているか
～文化芸術による社会的処方箋活動の実践と評価～

主　催：（公財）可児市文化芸術振興財団　共催：NPO法人世界劇場会議名古屋

後　援（申請中）：（一財）地域創造、岐阜県、可児市、国際交流基金、大和日英基金、ブリティッシュ・カウンシル、（公社）日本芸能実演家団体協議会、（公社）企業メセナ協議会、（公社）全国公立文化施設協会、（公社）劇場演出空間技術協会、文化経済学会〈日本〉、日本NPO学会、日本アートマネジメント学会、日本音楽芸術マネジメント学会、日本文化政策学会、（公財）舞台芸術財団演劇人会議、愛知県舞台運営事業協同組合、（公社）日本建築家協会東海支部

世界劇場会議国際フォーラム Final in 可児

International Theatre Conference Forum Final in Kani

テーマ　「劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているか
～文化芸術による社会的処方箋活動の実践と評価～

劇場が「社会機関」としてその公益性が期待される時代に変わりつつあります。貧困、格差、差別、つながりの欠如等に起因する「生きづらさ」や「生きにくさ」からの解放を使命とする、「文化芸術の社会包摂機能」を根底に据えた事業の重要性が求められています。

今回のフォーラムでは、国内外からさまざまな社会活動や先進的な劇場経営・文化政策を行っているゲストを招き、我が国の劇場が目指すべきことをパネルディスカッションで討論します。文化芸術における社会包摂、その先の社会的処方箋活動の実践に関する議論を展開できればと思っています。

1/26 木

受付12:00
13:00-19:00　会場：小劇場

13:00-14:10　緊急Session

「文化芸術の存続の危機、日英の社会情勢を共有する」
セーラ・ジー、福島 明夫、衛 紀生

14:20-15:00　講演 I

「英国における社会的処方箋の先進事例について」
ゾイ・アームフィールド

15:00-15:40　講演 II

「『共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点』が取り組む文化的処方」
伊藤 達矢

16:00-19:00　Session I

「セッション①」
セーラ・ジー / ゾイ・アームフィールド
福島 明夫 / 伊藤 達矢 / 衛 紀生
コーディネーター 細井 昭男

1/27 金

10:00-16:30　会場：小劇場

10:00-12:00　事例報告

「alaの社会的処方を援用した取り組み『まち元気プロジェクトver.2.0』」について
栗田 康弘

「四国こどもとおとなの医療センターの取り組み」
森 合音
コーディネーター 細井 昭男

13:00-13:40　講演 III

「文化芸術の社会的価値を伝える評価の役割」
落合 千華

13:50-16:30　Session II

「セッション②」
セーラ・ジー / ゾイ・アームフィールド / 福島 明夫
森 合音／落合 千華 / 衛 紀生 / 栗田 康弘
下斗米 隆 / 山出 文男
コーディネーター 細井 昭男

ご挨拶　Greetings

可児市文化創造センター　シニアアドバイザー兼まち元気そうだん室長
衛 紀生 Kisei Ei

ファイナルからの出立を。

世界劇場会議国際フォーラムは、２０１３年に「社会機関としての劇場＝公共劇場は何処にある」をタイトルに、『第三次基本方針』ではじめて「文化芸術の社会包摂機能」が文言化され、公的支援を「社会的必要に基づく戦略的投資」と位置づけられたのを受けて社会は文化芸術に何を求めているのかを自問する旅立ちをしました。その間に、会場を愛知県芸術文化センターから可児市文化創造センターalaに移して、その時々の、社会と私たち劇場との関心事をテーマに掲げ、それでも「劇場は社会に何が出来るか、社会は劇場に何を求めているか」を通奏低音として、とりわけて「社会包摂」における文化芸術と劇場・音楽堂の役割を全国に発信してきました。そして、今回をもって、その役割から降りることを決意しました。コロナ禍が、日英の劇場の先行きに深い翳を落としています。さらにインフレとエネルギー価格の３倍～４倍とも予想される高騰など、決して明るい明日は約束されてはいません。
しかし、私たちは、社会とのコミットメントという未来をはらんで、愛好者に限定されるマーケットから、共感と共創の共有価値マーケットという「明日」への出立をデザインしています。
最後にあたって、多くの皆様と共有した時間は、必ずや実現するとお誓いして、ファイナルのご挨拶といたします。ありがとうございました。

パネラー　Panellists

セーラ・ジー Sarah Gee
スピタルフィールズ・ミュージック代表理事

オーケストラでの業務を経て、鑑賞者開発、資金調達、組織開発のコンサルタントとして、芸術文化組織の分野で30年の経験を持つ。コンサルティング活動に加え、2019年から東ロンドンを拠点とする芸術チャリティ、スピタルフィールズ・ミュージックの非常任代表理事を務める。ヨーロッパや日本、中東などでブリティッシュカウンシル及び欧州放送連合等が主催する人材育成や会議の統括なども務める。ブリティッシュ - アメリカン・プロジェクト副理事長、ロイヤル・フィルハーモニック協会理事、及びロイヤル・ソサエティ・オブ・アーツ・フェロー。

ゾイ・アームフィールド Zoë Armfield
ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー　ラーニング主任

「音楽を通して人生を豊かにし変えていく」がロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニーのミッション。このフィルハーモニーの年間10万人の参加者を対象とした、音楽教育、才能開発、社会行動、健康に関する事業を14年間率いる。音楽の力による人々のウエルビーイングの向上、回復力の促進、人生のチャンスの増大に情熱を燃やし、多様性と包摂性を中心に据えた事業を実施。NHS（英国国民保健サービス）、教育機関、コミュニティグループ、アーティスト、芸術機関、寄付者及び資金提供者と協働し、受賞歴とインパクトのある長期的なパートナーシップを展開。

福島 明夫 Akio Fukushima
青年劇場　劇団製作責任者

1977年青年劇場入団、以来演劇製作畑を歩む。1988年より製作部長。1997年青年劇場代表就任。1999年より、（社）日本劇団協議会常務理事。2007年より現在に至るまで（公社）日本劇団協議会専務理事。また、（公社）日本芸能実演家団体協議会（芸団協）でも委員を歴任し、2014年から現在まで常務理事を務める。また1987年より日本新劇製作者協会理事。なお、2022年劇団代表退任。現在は劇団製作責任者を務める。劇団協議会、芸団協での活動を通じて、芸能実演、演劇文化の振興に尽力してきたが、2020年のコロナ禍以降、演劇緊急支援プロジェクトの中軸を担う。

伊藤 達矢 Tatsuya Ito
東京藝術大学社会連携センター特任教授

1975年生まれ。東京藝術大学大学院芸術学美術教育後期博士課程修了（博士号取得）東京都美術館と東京藝術大学のアートコミュニティー形成事業「とびらプロジェクト」など、多様な文化プログラムの企画立案に携わる。現在、東京藝術大学が中核となる「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」プロジェクトリーダー。共著に『ケアとアートの教室』（左右舎）、『美術館と大学と市民がつくる ソーシャルデザインプロジェクト』（青幻舎）等。

森 合音 Aine Mori
四国こどもとおとなの医療センターアートディレクター
NPOアーツプロジェクト理事長

2005年富士フォトサロン新人賞受賞　写真家として活動、2009年独立行政法人国立病院機構香川小児病院での壁画制作をきっかけにアートディレクターとして同病院勤務。2012年四国こどもとおとなの医療センター建設時、病院全体のアートディレクションを担当。現在アートディレクターとして同病院勤務。

落合千華 Chika Ochiai
一般社団法人CoAr（コア）代表理事
慶応義塾大学政策・メディア研究科研究員

社会的成果の言語化・評価を専門とし、主に子ども、芸術文化、コミュニティ領域の支援に従事。中央省庁、地方行政、企業や非営利組織への支援経験多数。2015年より被災地における芸術文化活動の評価支援に従事し、音楽や演劇等に関わる団体を中心に伴走支援を行う。メーカーR&D、経営コンサル、ケイスリー（株）でのインパクト・マネジメントコンサルを経て、子ども・芸術文化分野の支援に特化した一般社団法人CoArを設立。2020年5月には、インディペンデント・アーティストを支援する基金Arts United Fundを設立。

Coordinators

総括責任者
下斗米 隆 Takashi Shimotomai
NPO法人
世界劇場会議名古屋 理事長

アドバイザー
山出 文男 Fumio Yamade
NPO法人
世界劇場会議名古屋 副理事長

コーディネーター
細井 昭男 Akio Hosoi
ＮＰＯ法人
世界劇場会議名古屋 理事

コーディネーター
栗田 康弘 Yasuhiro Kurita
（公財）可児市文化芸術振興財団
顧客コミュニケーション室長